



「出し切る」強さ

校長 三杉 紀文

大人も子どもも、油断すると夏バテしてしまうかもしれない時期です。室内と室外の温度差や、水分や塩分不足など要因はさまざまですが、体調にはくれぐれも気を付けていきたいです。

さて、ちょうど1カ月前の学校総合北足立北部班大会は、気温が上がり、強風も吹く中、各会場で熱戦が繰り広げられました。結果として、サッカー部、女子テニス部（団体と個人1ペア）が見事に県大会出場を決めました。そうした結果以上に、生徒たちの試合（勝負場面）との向き合い方や以前と比べての成長ぶりに、私はより心を動かされました。

たとえば、県大会出場を果たしたサッカー部、女子テニス部も、決して順風満帆に勝ち上がったわけではありません。サッカー部は、初戦から大接戦となり、延長戦でも決着が付かず、PK戦へ。もはやどちらが勝ってもおかしくない緊張感高まるギリギリの状況の中で、最後は出し切ったのPK戦3-2の勝利。最後まで譲らない気持ちを通した末の結果でした。女子テニスの団体戦も、初戦から1勝1敗で迎えて最後の3ペア目の試合で勝敗が決する展開。負ければ後がありませんから、プレッシャーも相当にかかったはずでした。中盤、ミスが怖くなったのか、思い切ってラケットを振り切れていない場面があり、このまま終わってしまうのかとも思われました。ところが、終盤、どのように気持ちを切り替えたのか、自分たちの本来のプレーを取り戻し、最後は自分に打ち克つ形で、強打で攻め切って試合を制しました。試合直後に「出し切りました！」と報告をしてくれ、その内面の成長ぶりを強く感じさせられました。

また、これまでと比べて、その大きな成長ぶりに驚かされたのは、女子バレー部。相手の攻撃に対するランニングレシーブの取行が機能するなどして、結果的にこちらの攻撃（アタッカーがジャンプしての攻撃）の回数がこれまでと比べて格段に増えていました。また、1セット目は相手のペースで取られてしまいましたが、2セット目は見事に立て直し、逆にリードする展開に持ち込んでいました。失点後も「切り替えよう」といった前向きな声がコート内で交わされ、ここでも内面の成長ぶりを強く感じさせられました。

試合の結果には勝者と敗者が生じますが、自分との闘い、緊張や弱気などに負けずに自分たちのもっている力を「出し切る」という点においては、気持ちのいい試合を多く見せてもらうことができました。

